

## 中央執行委員長 挨拶要旨

全労金第73回定期大会にご参加の大会代議員、並びに、オブザーバーの皆さん、大変お疲れ様です。全労金第73回定期大会の開会にあたり、中央執行委員会を代表してご挨拶申し上げます。

本日の定期大会には、大変ご多忙中にも関わらず、連合本部より芳野会長、中央労福協より南部事務局長、UNI-LCJより上田事務局長、労済労連より上杉委員長、多くのご来賓の皆さまにご臨席を賜りました。大会参加者を代表して心から感謝を申し上げます。ご来賓の皆様には、日頃のご指導・ご鞭撻に感謝を申し上げますとともに、後ほど、それぞれのお立場から、全労金運動へのご助言や、全国の仲間に対する激励のご挨拶を頂戴できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また、労金協会／西田理事長につきましては、明日26日の議事再開時にご挨拶をお願いしておりますので、参加者の皆さんのご理解をお願いします。

冒頭、自然災害について、1月1日に発生しました2024年能登半島地震によって、多くの尊い命が失われました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご家族・ご親族、ご友人、等を亡くされた皆さんに謹んでお悔やみを申し上げます。また、被災されたすべての方々に心からお見舞いを申し上げます。

全労金は、地震発生以降、新潟・北陸労組と連携を図り、労使共同による緊急カンパを実施し、約1,863万円の集約することができました。ご協力いただきました組合員、並びに、労金業態で働く仲間の皆さんに心より感謝いたします。集まったカンパ金は、被災された職員の皆さんに加えて、被災金庫と被災自治体に配分することを予定しております。また、5月12日以降は、連合救援ボランティアに延べ15名の方に参加いただきました。参加いただいた皆さんはもとより、送り出していただきました単組・職場・家族の皆さんに敬意と感謝を申し上げます。連合救援ボランティアとしての活動は、7月末を持って終了となりますが、被災地では未だに被災当時の状態のままの地域もあります。被災地域で生活される皆さんが1日でも早く安心して生活できるよう、全労金としてできる支援を展開したいと考えています。

さて、皆さんは、今、どのようなことを思いながら、大会に参加されていますか。「1年ぶり、もしくは、何か月ぶりかで、全国の仲間に出会えることを楽しみにしている方」

「議論が活発にされることに対して期待している方」「夜の交流会で新たな出会いがあることを楽しみにしている方」「明日の発言に向けて、今から緊張されている方」「代議員定数があるので仕方なく、もしくは、女性参画や嘱託等組合員の参画を進めなければならないと言われて仕方なく、参加されている方」「職場を空けることや家を離れること等を理由に、消極的に参加されている方」等々、様々な気持ちの方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

全労金としては、ここにいらっしゃるすべての方が積極的に大会・会議に参加して欲しいと願っています。一方で、消極的に参加されている方にも、それぞれに事情があるのだとすると、その事情や理由を解消するために、どのような対策・対応が必要なのかを考える必要があるとも思っています。

組織拡大や組織強化の話をしていると「リアル組織率」という言葉を聞くことがあります。「リアル組織率」とは、主体的・能動的に労組活動を展開している組合員のことを言うそうです。全労金大会の参加者は単組役員が多いことから、主体的に労組活動を担っている方が多いはずですが、しかし、単組の大会や各種会議に参加するのは職場組織の役員や組合員ですので、積極的に参加している方の割合は減っていくのだらうと思います。この積極的に労働組合活動に参加する方を増やすにはどうしたらよいのか。労働組合の本質的な課題ではないかと思っています。

「若年層の組合離れ」という言葉は、私が若い時にも言われていましたし、いつの時代も年長者やリーダーは思うことなのかもしれません。ある報道によれば、新社会人の転職サイトへの登録者数は2011年から30倍近く増えており、転職に対する考え方、すなわち、働くことに対する価値観が変わっていることが伺えます。ただ、その報道によれば、仕事選びで重視するポイントは、「社会に貢献できること」「様々な仕事を経験できること」「資格や免許の取得に繋がること」「知識やスキルが得られること」等だそうで、自分自身の価値をあげたいという欲求があるとのこと。こうした傾向を踏まれば、労働組合の活動や役員を担う経験は、転職せずとも、社会貢献ができ、様々な経験もでき、知識やスキルも人脈も増やすことができる、魅力のある組織のはずです。若い方たちの意識が大きく変化していく中で、労働組合という組織を維持・発展させるためにも、今の担い手である私たちにできることを考え、行動していきましょう。

冒頭、組織強化の話をしました。労働組合の課題は、平和な社会や災害への備え、「ジェンダー平等」「仲間をひろげる取り組み」「上部団体や共闘組織との連携」「春季生活闘争や定年制度の見直しといった雇用や労働条件に関する課題」「ハラスメントや長時間労働、休暇取得といった職場環境の課題」「労働者自主福祉運動の発展に向けた労働金庫事業の課題」等、多岐に渡ります。すべての課題に触れる時間はないため、多くは明日までの討論を通じて、深掘りし、共通認識を図りたいと思いますので、あと3点に触れて挨拶いたします。

1点目は、2025年が2度目の国際協同組合年となることについてです。国連は、持続可能な開発目標の実現に向けた協同組合の実践、社会や経済の発展への協同組合の貢献に対する認知を高めるために、政府・協同組合がこの機会を活用することを求めています。要するに、持続可能な開発目標の実現に、協同組合は貢献しているのだから広めようと、来年が国際協同組合年になったのだと思います。1回目の国際協同組合年であった2012年は、全国実行委員会や都道府県の実行委員会が設置され、様々なイベントが行われましたが、その中心は農協と生協でした。今は、JCAも設立されていますので、協同組合陣営が協働して、国際協同組合年に向けた運動を進める必要があると思っています。

そして、国際協同組合年はいくまできっかけであり、今後の日本社会と労働金庫が抱え

る課題を考えれば、協同組合陣営の連携強化は必須になると思います。さらに、現在、ICAでは協同組合アイデンティティの見直し議論が進められています。過去の経過から、アイデンティティが見直されれば、その後に協同組合の理念、すなわち“労金の理念”についても見直しの検討が予想されます。そうしたことを踏まえれば、労働金庫も主体的に国際協同組合年に向き合い、活かし、ともに歩むことで社会的役割発揮を進めていく必要があると思いますし、私たち労働組合も強く意識して運動を進める必要があると思っています。

2点目は、ジェンダー平等についてです。

本定期大会も、代議員におけるパリティが達成でき、参加者全体でも約40%の女性参画となりました。女性参画の議論をしていると、よくクリティカルマス（30%）が求められますが、意見を言いやすい環境とするためには40%は必要だと言われています。本定期大会は参加者全体で40%となっていますので、積極的な議論参画をよろしくお願いします。

全労金の第1次ジェンダー平等推進計画は9月をもって計画期間を終了しますが、これまでの議論によって期間を1年延長するとともに、強化する課題をリストアップして取り組むことを考えています。そのうえで、2024年度には第2次計画を確立できるよう、精力的に議論を進めていきたいと考えています。第1次計画では、ジェンダー平等と言いながらも、男女平等参画が中心の取り組みだったと思っていますので、第2次計画では、真にジェンダー平等が推進できるよう、議論を進めたいと考えています。

さて、この間、全労金は、労金業態で働くすべての仲間を、誰一人取り残さないために、「金庫・団体間における再雇用支援策」「労金業態におけるあらゆるハラスメント禁止ガイドライン」や「DV被害者支援の取り組み」「不妊治療と仕事の両立支援ガイドライン」「レインボーフラッグ」「子どもの貧困解消に向けた取り組み」等を進めてきました。こうした取り組みのいくつかは組織内に留まらず、組織外からも評価を受け、発信することで、社会全体のジェンダー平等、男女平等参画社会の実現に、少しだけかもしれませんが、貢献もできていると思います。昨年も申し上げましたが、私たちの運動の前進に必要なチカラは、性別に関係なく、それぞれの経験やそれぞれの感性を持つ仲間のチカラの結集です。すべての仲間がチカラを発揮できるための環境整備を進めるとともに、整備された環境を利用する勇気を持てるようにしたいと思っています。

そして、3点目は、平和運動の強化についてです。今、国内外では、様々な戦争や紛争、平和を脅かす事件・事故、それに伴う動向があるかと思っています。

どれだけ組織強化や組織拡大を図ろうが、どれだけ協同組合運動が発展し、持続可能な開発目標に貢献できようが、どれだけジェンダー平等な社会が促進されようが、戦争のない、争いのない、平和な社会でなければ意味のないものになってしまいますし、ひとたび戦禍に巻き込まれてしまえば、積み上げて改善した風土や労働条件、職場環境、社会の意識も、無になってしまいます。振り返れば、労働運動も協同組合運動も、戦時下になれば弾圧を受けてきたという歴史もあります。「平和なくして労働運動なし」という言葉を議案書に記載している通り、世界平和のための運動を強化していきましょう。

最後に、本定期大会で議論するテーマは多岐にわたります。ぜひ、代議員の皆さんの積極的かつ建設的な討論によって、議案を豊富化いただき、大会参加者全体で、2024年度に向けた意思を合わせて、2024年度の全労金運動をチカラ強く展開する場としていただくことをお願いし、中央執行委員会を代表しての挨拶といたします。2日間、よろしくお願いいたします。

(了)